

| |
|---------------|
| ようごしゅう（しょきゅう） |
|---------------|

〈あぎょう〉

・あいさつ

ひととひとがであったときや、わかれるときにかわすれいぎてきなことばや
どうさです。

あいさつはこみゆにけーしょんのきほんです。

(あ)あかるく、げんきに、(い)いつでも、だれにでも、(さ)さきに、すすんで、

(つ)つづけましょう。

・あつしゆく えいきゅう ひずみ

ちょうじかんちからをくわえてへんけいさせると、ちからをとりのぞいてももとは
もどらなくなることをいいます。へんけいしたりょうをばーせんとであらわします。

・あつしゆく せいけい、こんぷれっしょん せいけい

みかりゅうごむをあたためたかながたのきやびていーにおいて、かながたをとじて、
かあつしてせいけいします。

・あんぜん かくにん

けがやじこをおこさないために、さぎょうやどうさをはじめるまえに
おこないます。

きかいをうごかすときやはものをつかうときはまわりのひとにちゅうい
します。

・あんぜん そうち、あんぜん きき

つうじょうじに、むいしきにせつびをとめるそうちです。

「らいとかーてんをさえぎる」、「まっとすいっちにのる」、「りみっとすいっちが
うごく」とせつびがとまります。さぎょうまえにてんけんし、しさこしょうをします。

あんぜんそうちをむこうにしてはいけません。

・いおう

さるふあー(Sulphur)です。かりゅうざいとしてもっともおおくしょうされます。

ごむのとくせいをつくるうえでじゅうようなはいごうざいりょうのひとつです。

・いざい こんにゅう

ことなるざいりょうがまじっているもしくはことなるざいりょうのことです。

ことなるざいりょうがまじらない、ことなるざいりょうをつかわないように、くぶん
ひょうじをして、せいそうとひろいこみぼうしをてっていします。

・いぶつ こんにゆう

ごむざいりょう や せいひん に はいごうざい いがいの もの が まじる こと です。

・いぶつ ふりょう

ごむざいりょう ではない ごみ など の ことなる もの が せいひん に こちゃくしたり、
こんにゆうしたり したも の です。

・いんなー

たいや の くうき や がす を ふうじこめる ぶざい で、おしだし かこう で つくりま す。

・うえんど、うえんどらいん

きやびていー の なかで ざいりょう の ながれ が ぶつか る ところ に できる せんじょう の
もよう です。うえんど の きょうど が ひくい と、そこから われる こと も ありま す。

・うおーみんぐ

せつび や かながた、だい(くちがね) を かねつ して、かこう しやすく する こと です。

・うちだんどり

せいさん せつび を とめて おこなう だんどりがえ です。

・うちぬき かこう

ぬきがた と ひらいた の あいだ に ごむ の しーと を はさみ、ぬきがた を うえ から
おしあて て かたち を うちぬく かこう です。

・うちぬきば

しけんへん など を うちぬく ため の はも の で、いろい ろな かたち が ありま す。

・えあー ふりょう

ざいりょう に くうき が はいり、ひょうめん が ふくらんだ もの で なか は くどう です。

・えきたい ふうにゆうしき ぼうしんごむ

ちゅうくう の ごむ に えきたい を いれて、えきたい の ねんせい を りよう した
ぼうしんごむ です。

・えらすとまー

「ちから を くわえる と へんけい するが、ちから を とりのぞく と もの の かたち に
もどる」せいしつ の「だんせいたい」の こと です。

・えんじん まうんと

じどうしゃ ぶひん に おおく つか われる ぼうしんごむ です。

えんじん を ささえて しんどう を ちいさくする と とも に しんどう が つた わる こと を
ふせぎま す。

・おいる

ごむを やわらかくし、はいごうざいの ぶんさんを よくして、ねり、あつえん、ちゅうにゆう、おしだし などの かこうせいを よくします。
ぶりーど や いこうせいに ちゅうい します。

・おうりよく

しけんへん に くわわる ちから を しけんへん の だんめんせき で わった あたい です。

・おーとくれーぷせいけい

たいあつかんの なかに かあつ ぐきを おくりこみ、ぐきを かねつして かりゆう します。

・おしだし かこう

ごむざいりょう を あつりよく を かけて だい(くちがね) を とおして、れんぞくてきに しょてい の けいじょう にする かこうです。

いっぱんてきな こうてい では おしだされた ごむ は かりゆう そう を とおり、ひきとり そうち で れいきやく こうてい、かつと こうてい に おくられます。

すくりゅー の かいてん そくど と ひきとりそうち の ひきとり そくど は ひんしつ に おおきく えいきょう します。

かつと き の はもの による せつそう じこ に ちゅうい します。

・おせん

ねつ や あつりよく により、ごむ から だた はいごうざい が あいてぶつ を よごす ことです。

かぐについた ごむ の すべりどめ や ごむまっと など により ゆか が へんしょく したり、じどうしゃ の どあごむ により しゃたい の とそう が へんしょく することが あります。

・おーりんぐ

だんめん が えんけい(おーのかたち) を した りんぐ けいじょう の ぱっきん です。

<か ぎょう>

・かーかす

たいや の こっかく の ぶざい です。

ごむ で こーていんぐ した せんい や すちーる わいやー を たばねて かさねます。

・かーぼん ぶらっく

せきゆ や がす を もやした すす(たんそ の びりゆうし) で、くろいろ の こまかな つぶ です。

ごむ に まぜると つよく、すりへり にくくなり、にっこう による れっか も ふせぎます。

とりあつかう ばしょ は かんき をして、ぼうじん ますく を つけて さぎょう します。

・がいかんけんさ

5かん(め、みみ、はな、した、ひふ) を つかって ひんしつ を はんてい する かのう けんさ です。がぞう しょり により きかいてき に はんてい する ほうほう も あります。

※ふりょうひん を そのば で てなおし しては いけません。

・かいぜん

げんじょう に まんぞく しないで、じぶん で もんだい を みつけて、より よい じょうたい へ へんか し つづける ことです。

・かかりゆう、かりゆうもどり

さいてきかりゆう を こえた かりゆうじょうたい です。やわらかくなり、きょうど も さがります。

・かき げんきん

ごむ や はいごうざい は もえやすく、きえにくい ので、ほかん ばしょ や しょう ばしょ に ひ が できるもの を もちこんでは いけません。

・かきよう

ごむ を かがく はんのう で はし を かけた ように つないで、せいしつ を へんか させる ことです。

・かけ ふりよう

けいじょう の いちぶ が なくなっている こと です。

とくに かどぶ が かけやすい です。

・かけふだ

せつび の てんけん や しゅうり を おこなっている こと を しめす ひょうしき(ふだ) です。

せつび の でんげん を 入れる などの そうさ をしては いけません。

・かこう じょうけん

ひょうじゆんしよ に きめられた おんど や じかん、あつりよく など です。

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を さいてき に する すうち なので、かつてに かえては いけません。

・かこうせい

ごむ や はいごうごむ の ごむよう かこうき での かこう の しやすさ です。

・がすけつと

せいし する めん に つかう しーる です。

・かた

ごむ の りゅうどうせい を りょうして、おしひろげる、ながす、つうか させる などし、れんぞくして どういつ けいじょう に かこうする ものです。

おしだしかこう : だい(くちがね)

せいけいかこう : かながた (うわがた、したがた、なかがた)

こんねりあつえんかこう : ろーる

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね

※かた が しまる とき や うごく とき には、ぜったいに て を 入れては いけません。

・かたずれ ふりょう

かながた の あわせ が ずれて、せいけいひん が へんけい して います。

・かたづけ

さぎょう が おわったら、つかった もの は きれいに そうじ を して、もとの ばしょ (てい いち) に もどします。その とき に だた ごみ は ぶんべつ を して すてます。

・かたない の よごれじよきよ

かりゅう による がす や ごむかす が かた の ひょうめん に ふちやくして よごれます。

よごれ は だっけいさぎょう、かこうひん の がいかん や すんぽう を そこないます。

かた に きず を つけないように、つぎの ぶい の よごれ を じゅうてん に とりのぞきます。

おしだしかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ

せいけいかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ および きやびてい

こんねりあつえんかこう : ろーる、らばーよけ の ひょうめん

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね の ひょうめん

・かた の てんけん

ひんばん や ひんめい を かくにん します。

きず や よごれ、ごむかす の こちやく が ないこと を かくにん します。

てんけん が おわった よい かながた を しんちょう に あつかいます。

・かたよごれ ふりょう

きやびてい に こちやくした よごれ の あと で、せいひん が へこんで います。

・かながたせんじょう

かながたない の よごれ を やくひん で あらったり、かたい ちいさな つぶ を ぶつけて はがしたり します。

かながた が せいけいき に とりついた じょうたい で、せんざい による ふきとり や そうじごむ を しようする ことで せんじょう を すくなくする ことができます。

・かりゅうかん

まるい つつがた の たいあつかん です。かん の なかに みかりゅう の かこうひん を 入れて、かあつした じょうき や かねつ した くうき(がす) で かりゅう します。

・かりゅうざい

かねつ など により、かきょうする はいごうざい です。

・かりゅうしけん

みかりゅうごむ に ねつ や ちから を くわえて、かりゅうおんど や かりゅうじかん など の さいてき かりゅう じょうけん を ひょうかする しけん です。

・かりゅうせつちやく

みかりゅうごむ と いんさーと(きんぞく や ぷらすちっく の ぶひん) を、かた で ねつ と あつりよく を かけて かりゅう して せつちやくする こと です。

あらかじめ いんさーと の ひょうめん に せつちやくざい を ぬります。

・かりゅうそくしんざい

かりゅうじかん の たんしゆく、かりゅうおんど の ていおんか、かりゅうざい の げんりょう、せいひん の ぶつせい こうじょう を はかります。

・かりゅうぶそく

さいてきかりゅう に とうたつ して いない かりゅう じょうたい です。

そのぶぶん が ふくらんで、ないぶ に ちいさな きほう が できたり、かたさが でない など の ふぐあい となります。

・かれんだー しゅうしゆく

かれんだー かこう で うすく のばされた ごむ が のばされた ほうこう に たいして ちぢむ こと です。

・かれんだーたん

たいや の かれんだー した ぶざい を ろーるじょう に まいた もの です。

・かれんだーろーる き

2ほん いじょう の ろーる の あいだ に ざいりょう を 入れて かいてん させ、うすく のばします。

・がんりょう

ごむざいりょう に いろ を つける はいごうざい です。

いろいろな いろの ごむ(からーごむ) は、ぶらっかーぼん の かわりに ほわいとかーぼん など で ほきょう して、がんりょう で いろ を つけます。

・きず ふりょう

かた の きずあと や ばりきり はさみ など による きりきず や すりきず が げんいん で ふりょう と なります。

・きゃびていー、きゃび

かながた ない の せいひん を かたどった かうかん です。

1つ の かながた に いくつか の きゃびていー を つくり、1しよつと で たくさんの せいけいひん を つくります。

・きゅうていし そうち

ろーるき での さぎょうで ひじょうじ(きんきゅうじ) に、いしきてき に ろーる の かいてん を とめる ため の そうち です。

「ろーぷ すいっち を ひく」、「ばー すいっち を おす」、「ぼーど すいっち を ける」と ろーる の かいてん を とめること が できます。

・きゅらすと めーたー、れお めーたー

ごむ の こうか を そくていします。

ごむ が ただしい はいごう か、ぶんさん ふりょう が ないか、さいてきかりゅう で あるか を はんてい できます。

ねり の ろつと ごと に そくてい して、ごうひ を はんてい します。

・きんぞくせい ちよくじゃく、こうじゃく、かなじゃく

そくてい ぶつ に みつちやく させて、め の いち を しょうめん に して あたい を よみとります。

0 が はし に あり、すりへっている ばあい は ここ を きてん と しては いけません。

さいしよ めもり いか は めぶんりょう で よみとります。

・くぶんひょうじ

しかかりひん と かこうすみひん、みけんさひん と けんさすみひん、りょうひん と ふりょう

ひん など、もの の じょうたい を くわけ して ひょうじ します。

・ぐリーん たいや

たいや の かーかす、べると、とれっど、びーど など の ぶざい を はりあわせて つくった たいや の げんけい です。

「なま たいや」とも いわれ、かりゅう する まえ の たいや です。

・ぐリーんきょうど

げんりょうごむ や みかりゅうごむ の つよさ で、ひっぱり しけん により ひょうか します。 かりゅう まえ の かこうせい に えいきょう します。

・くれーじんぐ

ひかり により れっかして、ごむ の ひょうめん に おおくの ちいさな ひびわれ が できた じょうたい です。

・けいじょうしあげ

せつび による かこう で つくった かこうひん を せいひん に する ため に おこなう かこう です。

あとこうてい の ようきゅう に おうじて、きめられた すんぽう および けいじょう に します。

おしだしかこう : ながさ さいだん(せつだん)

せいけいかこう : さいだん や ぱりとり(てむしり や こうぐ による せつじょ)

こんねりあつえんかこう : しーとはば さいだん

ふくごうせきそうかこう : さいだん、じょいんと てなおし

・げーと、ちゅうにゅうげーと

みかりゅうごむ が きやびていー に はいる いりぐち の つうろ(りゅうろ) です。

・けんさいん

「けんさいん しかく にんてい ひょうか」に ごうかく して とうろく された ひと です。

ていき に ひょうか を おこない、しかく を こうしん します。

・げんど みほん

けってん の 「どこまで を ごうかく と するか」を しめす かこうひん の みほん です。

・こうてい ない けんさ

じぶん が かこう した もの の がいかん や すんぽう など の できばえ を かくにん します。

・こうど

ごむ の かたさは 「こうど」として すうち で あらわします。

すうち は そくていき の しゅるい に より ことなります。

・こうどけい

はり や はんきゅう の かたち を した とつきぶつ による へこみりょう を はかります。

はかる せいひん に おうじた こうどけい を せんでい します。

こうどけい を せいひん に あて、まうえ から せいひん に おしつけます。

こうどけい と せいひん が あたって から、いってい じかん ご の あたい を よみとります。

・5S

①せいり(Seiri) : いるもの と いらぬものを わけて、いらぬものを すてます。

②せいとん(Seiton) : とりだしやすい ように きめられた ばしょに おいて ひょうじ します。

③せいそう(Seiso) : きれいに そうじ を しながら、みのまわり を てんけん します。

④せいけつ(Seiketsu) : きれいな じょうたい を つづけます。

⑤しつけ(Shitsuke) : きれいに つかう ことを あたりまえ と します(しゅうかんづけ)。

・こくさい ごむかたさ、IRHD

しけんへん に とつきぶつ を いってい の ちから で おしつけた とき の へこみりょう です。

はかるもの の かたさ に より、とつきぶつ の おおきさ と おしつける ちから を かえます。

・こなづけ

ひょうめん の ねんちやく を ふせぐ ために、こな を ふりかける こと です。

・ごみ の ぶんべつ

しょくば の きまり に したがって ごみ を わけて すてます。

・ごむ の しゅるい

てんねん ごむ : ごむ の き から とれる じゅえき(らてつくす) から つくられます。

ごうせい ごむ : せきゆ(なふさ) から つくられます。

・ごむ の せいしつ

へんけい しても もと の かたち に もどります。(のび ちぢみ します)

おんど が たかい と やわらかく、のび やすい です。

ちょうきかん つかう と かたくなり、のび や ちぢみ が ていか(れっか) します。

しょうげき や しんどう を ぶんさん(きゅうしゅう) します。

みず や おと の もれ を ふせぎます。

・ごむのよう

てんねんごむ：たいや、はきもの、ほーす、べるとなどにつかわれます。

ごうせいごむ：いろいろなごむがあり、さまざまなようにつかわれます。

・ごむこ

ごむせいひんをくいだいたもので、そのおおきさによりよびながことなります。

ごむびふんまつ：0.1mm いか

ごむふんまつ：0.1mm~1mm

ごむペレット：1mm~10mm

ごむちっぷ：10mm~50mm

・ごむししょう

じょうげのこうぞうぶつにあいだにせっちし、じょうぶをささえるとともに、おもにじしんなどのよこゆれをきゆうしゆうするごむせいひんです。

・ごむびき

ごむをぶざいにがんしんさせることやひょうめんにひふくすることです。

・ごむびきふ

ぬのにごむをぬりかさねてかりゆうしたしーとです。

・ごむらいにんぐ

ごむをこんくりーとやきんぞくにせつちやくし、ひょうめんやないめんをおおうことです。つかわれかたにtekishitaごむをえらんで、ふしよくやまもうからまもります。

・こんねりあつえんかこう

こんねり：げんりょうごむにいろいろなやくひんをきんいつにぶんさんさせます。

あつえん：こんねりされたざいりょうをうすくのばします。

ろーるそうちのかいてんによるまきこまれじこにちゅういします。

・こんねりき

まぜる、つぶす、ねる、つくなどをどうじにおこない、ごむとはいごうざいをきんいつにぶんさんさせます。

・こんぱうんど、はいごうぶつ

ごむげんりょうにはいごうざいをまぜたみかりゆうごむです。

<さぎょう>

・さーじんぐ、みやくどう

ざいりょうのおしだしにむらがあり、だいからでたおしだしひんがおおきななみ(surge)のようにうねることです。

おしだしひんのけいじょうやすんぽうがばらつきます。

・さいせいごむ

かりゆうしたごむにねつやちからをくわえたり、やくひんでしよりしたりしてかそかしたごむです。

・さいだん(せつだん)

ざいりょうやかこうひんをれんぞくしてちよくせんてきにきります。

かたできりぬいたり、きよくせんできることもあります。

・さいてきかりゆう

ごむせいひんにようきゆうされるせいしつをまんぞくするかりゆうじょうたいです。

ただしいざいりょうをてきせつなじょうけんをかこうします。

・さいど、さいどうおーる

くるまをささえてたわむたいやのぶざいでおしだしかこうでつくります。

せいけいかこうでしょうひんめいやさいずをいれます。

・ざいりょうのてんけん

ひんめいやばんごうがただしく、しょうきげんいないで、しけんにごうかくしていることをかくにんします。

かたちやすんぽうがただしく、いぶつのこんにゆうがないことをかくにんします。

てんけんがおわったまちがいのないざいりょうをしょうします。

・ざいりょうのよびかた

ざいりょうはかこうこうていでつかうけいじょうにより、いろいろなよびかたがあります。

せいけいかこう：ばうえるだま、たんざく(こんぷれっしょんせいけい)

しーと、ざぶとん(とらんすふあーせいけい)

りぼん(いんじえくしょんせいけい)

おしだしかこう：りぼん、ペれっと、ねりきじ、てーふざい

・ざいりょうきょうきゆう、ざいりょうとうにゆう

かながたやかこうきのきめられたぶいにざいりょうをいれます。

せいさん に あわせて とぎれること なく きょうきゅう しなければ いけません。

・さきいれ さきだし

ほかんした ざいりょう や かこうひん は、ふるいもの から じゅんばん に つかいます。
さき に いれた もの を さき に だす、FIFO(First-In First-Out) と も いわれます。

・さぎょう の ころがまえ

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を よくする こと を ころがけて ください。

①あんぜん な さぎょう

②かくじつ な さぎょう(よい ひんしつ)

③じゅくれん した さぎょう(たかい せいさんせい)

・さぎょうば

2S(Seiri, Seiton) が きほん です。

①せいり : いるもの と いらぬものを わけて、いらぬものを すてます。

②せいとん : いるものを とりだしやすい ように、きめられた ばしょに おいて ひょうじ
します。

・しーる

もの と もの の あわせめ や つぎめ から えきたい や きたい が そとへ もれる こと
や そとから なか へ はいる こと を ふせぐ せいひん です。

・じこうぐ

じぐ と こうぐ を あわせて じこうぐ と いいます。

じぐ : かこう や くみたて など を てだすけ し、どうさを あんない する ものです。

こうぐ : かこう する どうぐ や きかい です。

おしだしかこう : めりーかったー、らしゃばさみ、さいだんじぐ など

せいけいかこう : にっぱー、はさみ、うちぬきじぐ など

こんねりあつえんかこう : ないふ、はさみ、さいだんじぐ、はかり など

ふくごうせきそうかこう : ほっとめす、すてっちやーろーらー、かったーないふ など

・じこうぐ の てんけん

じこうぐ が こわれて いたら、しごと ができません。けが を すること も あります。

は の かけ や うごき を かくにん します。

てんけん が おわった よい じこうぐ を ただしく つかいます。

・じこうてい かんけつ

「わるいものを まえ の こうてい から うけとらない、じぶん の こうてい で つくらない、

あとのこうていにおくらない。」という、せいさんせい こうじょうのとりくみです。

・しき こしょう(ゆびさし こしょう)

あんぜんのいしきをたかめて、まちがいやみすをなくし、じこをふせぐためのとてもよいしゅだんです。

てんけんするかしよをしっかりとみて、ゆびをさして、おおきなこえで「〇〇よし！」

・じどうしゃぶひん

ごむせいひんはおおくのじどうしゃぶひんにつかわれています。

せいけいかこうせいひん

ぼうしんごむ：えんじんまうんと、さすぺんしょんぶつしゅ、だんぱーなど

しーるごむ：おいるしーる、こねくたーしーる、えんじんかばーなど

おしだしかこうせいひん

ほーす：ねんりょうけい、みずけい、くうきけいなど

しーるごむ：うえぎーすととりっぷ、がらすらんちゃんねる、とらんくりつどなど

ふくごうせきそうかこうせいひん

たいや：ちゅーぶれすたいや、すたつどれすたいや、らんふらつとたいやなど

でんどうべると：Vべると、たいみんぐべると、へんそくべるとなど

・しみだし

ひょうめんをひふくしたごむざいりょうがうらめんのにじみでることです。

・しゃしゅつせいけい、いんじえくしょんせいけい

みかりゅうごむをしゃしゅつせいけいきでかねつしてとじたかながたにあつりよくをかけてじゅうてんしてせいけいします。

・じゃすと いん たいむ(Just-In-Time)

ひつようなものを、ひつようなときに、ひつようなかず(りょう)つくることです。

・じゅうてんりつ、ふいるふあくたー

こんねりきのようりょうにたいする、とうにゅうするざいりょうのようせきのひりつです。

・じょいんとてなおし

たいやのかーかす、べると、とれつどなどのかくぶざいをどらむにまきつけて、たんぶをあっちゃくしたぶぶんのさゆうのずれやうきをしゅうせいします。

・じょいんとれすばんど

いくつかの たいやこーど を とっぴんぐ した てーぷじょう の ぶざい です。
くうきいり たいや に もちいられ、 ふくらみ けいじょう を ちょうせい して、 こうそく
たいきゅうせい を こうじょう させたり、 のいず を ていげん します。

・しろう きげん

せいじょう な ぶっせい や かこうせい を たもつこと が できる きかん です。
たいよう の ひかり、 ねつ や すいぶん に より れっか します。

・しよつと

かながた による せいけいかこう さぎょう の 1かいぶんの こと です。

・すくらつぷごむ

ふよう になった ごむせいひん や みかりゅうごむ です。
せいぞうかてい で はっせい した くず、 ふりょうひん や ばり など が あります。

・すくりゆー

おしだしき の らせん の みぞ が ある ぶひん です。
かいてんして みかりゅうごむ を ねりながら まえ へ おしだします。

・すこーち

ごむざいりょう が ほかんちゅう など かりゅうこうてい の まえ に かりゅう して しまう こと
です。

だんせい が まして、 しよていの けいじょう に かこう する こと が できなくなります。

・すこーちたいむ、 むーにーすこーち

ごむはいごうぶつ は かねつすると やわらかくなり、 ねんど が さがります。
さらに かねつ すると かりゅう して かたくなり、 ねんど が あがります。
ねんどの さいていち から しよていの ねんど に あがった じかんの こと です。

・すていっきー

ごむ が べとついている こと です。

・すとれーなー

ごむざいりょう に ふくまれる はいごうざい の かたまり や いぶつ を とりのぞく そうち
です。

・すねり

ごむ を だんせい が つよい じょうたい から かそせい が つよい じょうたい に します。
ねる ちから と ねつ で やわらくして、 はいごうざい を まざりやすく します。

・すねり そくしんざい (しゃくかいざい)

ねるちから や ねつ により ごむ が やわらかくなる ことを はやくする はいごうざい です。

・すぱいだーらいん

ごむざいりょう が おしだしき の なかで すぱいだー により さえぎられた あと が おしだしひん に のこった すじ(しま もよう) の こと です。

ざいりょう の ゆうごう(とけあう) ふりょう です。

すぱいだー とは たい を ささえる ふぶん で、かたち が くも に にている ので 「すぱいだー」と いいます。

・すぱいらるほーす

ないそうごむ の そとがわ に ほきょうざい(いと や きんぞくわいやー) を らせんじょう に まきつけた ほーす です。

・すぴゅー

たいや の とれっど や しよるだー、さいど に ある ひげ の ような いとじょう の ほそい ごむ を 「すぴゅー」と いいます。

かながた の くうきぬき の ちいさな あな から くうき が ぬける さいに、ごむ が ふきだし(spew)て できます。

・すぷーる

しゃしゆつせいけいき から でた みかりゅうごむ が かながたない に ながれこむ さいしよ の つうろ(りゅうろ) です。

・すぼんじごむ

れんぞくきほう の ごむ の はっほうたい です。

・すんぽう けんさ

せいひん の おおきさ が きじゆんしよ どおりに つくられて いるか、そくていき を しようして かくにん する さぎょう です。

そくてい する こうもく と おおきさ および こうさに てきした、そくていき を せんてい します。

・すんぽう ふりょう

ながさ、あつみ など の すんぽう が きめられた あたい からはずれている もの です。

・せいけい かこう

あたためた かながた の なか に ざいりょう を 入れて かたち を つくります。

こんぷれっしょん(あつしゆく)せいけい、とらんすふあー せいけい、いんじえくしょん(しゃしゆつ)

せいけいといった ほうほう があります。

こんぷれっしょん では ざいりょう の おきかた が ひんしつ に えいきょう します。

かながた の かいへい による はさまれ じこ に ちゅうい します。

かながた の ひーたー が きれると おんど が あがらず、かりゅう ぶそく に なります。

・せいけい しゅうしゆく

かながた で あっしゆく された あつい ごむ が かながた から でて、ひえて ちぢむ ことです。

・せいそう

せいそう は きれい に する だけ でなく、つぎの ような もくてき があります。

①いじょう に きづく(てんけん)

②よごれ や いぶつ こんにゆう を ふせぐ(ひんしつ)

③すべる、つまづく を ふせぐ(あんぜん)

・せきそうごむ

ごむ と ほか の ざいりょう を かさね あわせて、かりゅう せつちやく した もの です。

・せつちやくざい

もの と もの を つないで ひとつ に する ざいりょう です。

ごむかこうひん の ひょうめん の あぶら や よごれ を とりのぞき かわかします。

ひょうめん を あらくしたり、したぬりざい を ぬる と うまく せつちやく できます。

・せる

はっぼう して できた きほう で、はしら(こっかく) と かべ(まく) で かこまれた ちいさな ぐかん の こと です。

・せんたーずれ、おふせんたー ふりょう

たいや の ぶざい が ちゅうしん を はずれて、さゆう の どちらか に かたよっている こと です。

かーかす や べると を どらむ に まく ときに きじゅんせん を しっかり かくにん します。

・そくていき

もの の かたち、おおきさ、おもさ など を すうち で あらわす どうぐ です。

おしだしかこう : のぎす、きんぞくせい ちよくじゃく、とうえいき など

せいけいかこう : のぎす、はいとげーじ など

こんねりあつえんかこう : のぎす、きんぞくせい ちよくじゃく、だいやるしっくねすげーじ
けいりょうき(はかり) など

ふくごうせきそうかこう : まきじゃく、でぷすげーじ など

・そくていき の てんけん

ひんしつ を たもつ ために ひつよう で、 こうせい ずみ の そくていき を つかいます。

がいかんの はそん、 ぜろ てん や うごき を かくにん します。

てんけん が おわった よい そくていき を ただしく つかいます。

・そとだんどり

せいさん せつび を とめずに おこなう だんどりがえ です。

<たぎょう>

・だい、だいす、くちがね

おしだしきの ざいりょう の でぐち に とりつける かた です。

・たいこうせい

にっこう(ひかり)、おんど(ねつ)、しつど(みず)などの きこう による がいかん や せいしつ の へんかに たえる せいこう です。

・だいすうえる

ごむざいりょう が だい から おしだされた ちよくご に ふくらむ こと です。

おしだしひん の だんめんけいじょう は だいの けいじょう よりも おおきくなります。

・たいやこーど

たいや の けいじょう を ほじ する ための ほきょうざい です。

たていと と よこいと が 「ひよけ の すだれ」 の ように なった おりもの(きじ) です。

・だいやるしっくねすげーじ

ればー を ゆび で おしさげて、せいひん を はさんで あつみ を はかります。

ぜろてん を あわせた のち、せいひん を めんちよく に はさみます。

がいしゅう の さいしょうめもり は 0.01mm で、 はり は とけいまわり に まわります。

ちいさな えん の さいしょうめもり は 1mm で、 はり は はんとけいまわり に まわります。

・ためしかこう

せつび で さぎょう の はじめ に かこうひん(しよひん) を つくる こと を いいます。

しよひん の できばえ を かくにんし、 ふぐあい が なければ、 つづけて かこう を

おこないません。

せいけい かこう、 おしだし かこう、 ふくごう せきそう かこう で おこなう さぎょうです。

・だんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた とき に、もとの かたち や すんぽう に しゅんじ に もどろう とする せいしつ です。

・だんどりがえ

かこうひん の しゅるい や、さぎょう を へんこう する とき の まえじゅんぴ です。ひょうじゅんしょ、ざいりょう、かた、かこうじょうけん の へんこう だけでなく、さぎょうないよう の かくにん や せいそう も たいせつ です。

・だんどりがえ じかん

だんどりがえ に かかる じかん です。

だんどりがえ じかん を みじかく する くふう が たいせつ です。

・たんめん はがれ ふりょう

たいや や べると を つくる とき、ごむ を はりつけ した たんめん の ぶぶん が はがれる ふりょう の こと を いいます。

・ちゅうけい せいけい

せいひん の もでる から すがたどり を して、しりこんごむ など の かた を つくります。この かた に じゅしざいりょう を ながしこんで せいけい します。

・ちゅーぶ、ごむかん

ほきょうざい は なく、ごむざいりょう で できた ちゅうくう の くだ(ぱいぷ) です。

・ちょうせいさぎょう

ためしかこう で かくにんした できばえ に おうじて、ひょうじゅんしょ に したがって かこう じょうけん を へんこう します。

・ちょーきんぐ

せいひん が ひかり や ねつ、みず によって れっかし、ひょうめん に じゅうてんざい が でて、しろい こな を ふいた じょうたい です。

・つうろ

きめられた つうろ を つぎの きまり を まもって、あんぜんに とおります。

①はしりません

②ちかみち を しません

③ぼけつと に て を くれません

④すまほ や けいたいでんわ を しません

⑤おしゃべり を しません

・でーらいと

せいけいき や さいだんき など の こていばん と かどうばん の きより です。

・でいっぴんぐ

えきじょう の ごむげざいりょう に ふくしざい や かた を つけこみ、ひきあげたのちに かねつ かんそうして かためます。

・でいっぴんぐこーど(でいっふたん)

たいやこーど に せちやくざい を とふして、ごむざいりょう を でいっぴんぐ した もの です。

・でゆるめーたー かたさ

でゆるめーたー は こうどけい の 1しゅ です。

はかるもの の かたさ により、でゆるめーたー の たいぷ(しゅるい) を かえます。

・てんけん

よごれ や きず、あぶら や みず もれ、おかしな おと が しないか など、ひとつ ひとつ ていねい に かくにんし、しきこしょう して、けっか を きろく します。

まいにち、しぎょうまえ に てんけん します。

・どくりつきほう、くろーずどせる

せる(きほう) が かべ(まく) で しきられて、せる と せる が つながっていない じょうたい です。

・とそう

ひょうめんしよりの ひとつで、せいひんの ひょうめん に とまく を つくる ことです。

つや を だす、れっか や へんしよく を ふせぐ など の ために おこないます。

ごむ は しろいので、くべつする ために いろ の しるし を つける こともあります。

・とめる よぶ まつ

「いつもと ちがう、おかしい？」と おもったら、さぎょう を しては いけません。

①さぎょう を とめます。

②じょうし を よびます。

③じょうし が くるまで まちます。

・とらんすふあー せいけい

みかりゅうごむ を、かねつ した かながたじょうぶ の ちゃんばー(ぽっと) において、かながた を しめつける と どうじに きゃびていー に おしこんで せいけい します。

・とれっど

たいやのろめんにせつするぶざいでおしだしかこうでつくりま
す。せいけいかこうこうていでいろいろなみぞやきれこみをいれま
す。

<なぎょう>

・7つのむだ

おきゃくさまにとってのち(ふかち)がないさぎょうです。

- ①かこうのむだ：もののすがたかたちをひつよういじょうにかえるむだ
- ②ざいこのむだ：ものをていたいさせるむだ
- ③つくりすぎのむだ：ものをひつよういじょうにつくるむだ
- ④てまのむだ：もののすがたかたちをかえないじかのむだ
- ⑤どうさのむだ：もののすがたかたちをかえないうごきのむだ
- ⑥うんぱんのむだ：もののいちをかえるむだ
- ⑦ふりょうてなおしのむだ：ものをまちがったすがたかたちにかえるむだ

・にじかこう

かりゅうをおえたかこうひんにあらためてべつのかこうをおこなうこと
です。ごむしーとのりょうめんてーぷはりかこうやうちぬきかこう、しーるごむのじょいんと
かこうやたんまつかこう、ぼうしんごむのしぼりかこうなどがあります。

・にじかりゅう

こうおんでちょうじかんかねつすることにより、かこうひんにのこったはいごうざい
などをとりのぞきます。

ぶっせいやすんぽうをあんていさせます。

・にちようひん

ごむひも、わごむ、けしごむ、すべりどめなど、いろいろなにちようひんにごむが
つかわれています。

・につぶ

2ほんのろーるひょうめんのかんげき(かんかく)のことです。

・ぬのまきほーす

ないそうごむのそとがわにぬのをまきつけたほーすです。

・ねつばん

ねつとあつりよくをかながたにくわえるきんぞくのあついいたです。

・ねりひんしつけんさ

こんねり された ごむざいりょう の むーにーねんど や かりゅうとくせい、および ひじゅう や こうど といった ぶっせい を しけん ひょうか します。

・ねんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた ときに、もとの かたち や すんぽう に もどる までに、じかん が おくれる せいしつ です。

・ねんだんせい

ざうりょう が へんけい した とき の ねんせい と だんせい の くみあわせ です。

しょうげき を きゅうしゅする(ながす) ねんせい と はねかえす(もとに もどる) だんせい の りょうほう の せいしつ を もつ こと です。

・ねんちゃくりよく

もの と もの を くっつける ちから ですが、はった もの を はがす ときに ひつような ちから の こと です。

ねんちゃく とは すぐに くっつける こと が でき、はがす こと も できる じょうたい です。

・のぎす

せいひん を はさみこんだ じょうたい から じょじょに ひろげたり ちぢめたり(せばめたり) して、せいひん が おちるか おちないか の とき の あたい を よみとります。

※のぎす で はさむ ちからが つよすぎると せいかくに そくていが できません。

・のび、のびりつ

しけんへん を ひっぱり、もとの ながさに たいして のびた ながさを ぱーせんと で あらわした もの です。

<は ぎょう>

・ぱーていんぐらいん、ぴーえる

うわがた、なかがた、したがた など に ぶんかつ した かながた の あわせめん です。

・はいごうざい

せいひんに ひつような とくせい や ひんしつ を かくほする ため、かこうせい の かいりょう や ぶっせい の こうじょう など を もくてき として、げんりょうごむ に くわえる げんざいりょう の こと です。

・はいごうひょう

ごむ の じゅうりょう を 100 と して、はいごうざい の じゅうりょう を あらわした ひょう

です。

はいごうざい の てんかりょう を phr(per hundred rubber) で あらわします。

・ばいやす たいや

かーかす が ななめ(bias) こうご に かさねて はいち されている たいや です。

・はがれ

たいや の かーかす や べると などの せつちやく ふりょう ぶい が はがれます。

・ばぎんぐ

ろーるき による こんねりあつえん かこう において、 しーとじょう に のばされた ごむざいりょう が ろーる に まきつかなくて、 うきあがる こと です。

・ぱつきん

おうふく や かいてん といった うごく めん に つかう しーる です。

・ばっち

1かい の こんねりあつえん かこう で せいさん される ざいりょう の たんい です。

・ばっちおふ ましん

こんねりあつえん かこう で つくられた しーと や りぼん を ぼうちやく しより し、 ひやして かわかした のち、 きめられた ながさ に きって、 おりたたむ きかい です。

・はっぼうごむ

どくりつきほう の ごむ です。

・はっぼうざい

はっぼうごむ や すぽんじごむ の きほう を つくる きたい を はっせいさせる はいごうざい です。

・ばり

かながた の ぱーていんぐらいん から はみだした ごむ や ちゅうにゆうげーと の ごむ です。

・ばり しあげ、ばりきり しあげ、 ばり とり

とりのぞく ばり を かくにんし、 きめられた すんぼう に きります。

ばりきり ょう の はさみ や にっぱー など を つかって かこう します。

せいひん を きらない よう、 きりすぎ に ちゅうい します。

・ばり とり わすれ

ばり が とり のこされた じょうたい です。

とり わすれ が ないように、 きめられた てじゅん で ばり を とります。

・ばり のこり

ばり が きり のこされた じょうたい です。

きり のこり が ないように、きめられた ほうほう で ばり を きります。

・ばり ふちやく

ばり が せいひん などについた じょうたい です。

けんさ で ばり とり わすれ、ばり のこり、ばり ふちやく を みつけたら、ほりゆうひん はこ に いれます。けんさいん が てなおし を しては いけません。

・ばんく

おしだしき の ざいりょう の とうにゆうぶ(ほっぱー) や ろーるき の ろーる の かんげき に できる ごむ の かたまり です。

おしだしりょう を あんていさせて、すんぽう や けいじょう を たもちます。

・はんぱつたんせい りつ

くわえた ちから と はねかえる ちから の ひ を ぱーせんと で あらわした もの です。

・ばんぴんぐ、ふれっしんぐ

かりゆう の はじめのころ に きゃびていー の くうき や がす を めくため に、かながた を みじかいじかん くりかえし あけしめする こと です。

・びーど

たいや の かーかす の りょうたん を ほいーる に こてい する ぶざい です。

すちーるわいやー を たばね、ごむ で こーていんぐ して わっか(りんぐ) を つくります。

・びーどふいらー

たいや の だんめん が さんかつけい の かたい ごむ の ぶざい です。

びーどわいやー の うえ に いれて、びーどぶ の かたち を ととのえる と ともに へんけい を おさえます。

・ひきさき つよさ

しけんへん を ひきさく のに ようする ちから です。

うちぬきば は おもに きりこみなし の あんぐる がた を つかいます。

・ひじょう ていし そうち

ひじょうじ(きんきゅうじ) に、いしきてき に せつび を とめる そうち です。

「ぼたん を おす」と せつび を とめること が できます。

・ひっぱり つよさ

しけんへん を ひっぱって はだん させる のに ようする ちから です。

うちぬきば は だんべる がた を つかいます。

・ひょうじゅんか

さぎょう ごと に ひつような こうもく を きめて、むり なく ひんしつ を たもつ ことが
できる きじゅん を きめる こと です。

ひょうじゅん と げんじつ の ちがいに きづいて、かいぜん する ちゃんす が うまれます。

・ひょうじゅんしよ (さぎょう ひょうじゅん)

ぎじゅつ ひょうじゅんしよ、さぎょう てじゅんしよ、けんさ きじゅんしよ など があり、
きめられた ほうほう、てじゅん を まもって さぎょう することが たいせつ です。

・ひょうめんしより

せいひん の ひょうめん を けんま、とそう や かがくしより など により かこうする こと
です。

はろげんかしより(えんそ)、ふんまつしより(しりか、たるく)、こーていんぐしより(しりこーん、
ふっそ) は ごむせいひん の べたつき や こちゃく、すべりを かいぜん します。

・ぴんほーる ふりょう

ざいりょう や せいひん の ひょうめん に できた ちいさな あな(へこみ) です。

・ふあいなるばっち、Bねり

ますたーばっち に かりゅうざい など を くわえて、こんねりした ごむざいりょう です。

・ふくごう せきそう かこう

いろいろな ごむ ざいりょう(ぶざい) を、かた(どらむ、しんがね) に まきつけて、
はりあわせ を して、かたち を つくります。

たいや の はりあわせ では かた(どらむ、しんがね) の かいてん による まきこまれ
じこ に ちゅうい します。

はりあわせぶ の いちずれ や はがれ は ひんしつ に えいきょう します。

・ぶだし、しーていんぐ

ごむ を うすくして、しよてい の あつみ と はば に のばす こと です。

・ぶっしゅがた ぼうしんごむ

ないとう と がいとう の 2つ の きんぞくせい の つつ の あいだ に ごむ を せつちやく
もしくは あつにゆう した ぼうしんごむ です。

・ぶらだー、かりゅう ぶらだー

かながた ない に そうにゆう された ぐりーんたいや を かあつ および かねつ する ごむ

せい の じぐ です。

ぶらだー に かあつ じょうきを いれて ふくらませ、ぐりんーたいや を かながた に みつちやく させます。

・ぶりーど

れっか ではなく、ひょうめん に えきたい の はいごうざい が しみだして、つや が あり、べたついた じょうたい です。

・ふりくしよんこーていんぐ、ふりくしよにんぐ

かれんだーかこう で せんい に ごむ を ひふくする こと です。

・ふりくしよんひ

2ほん の ろーる の ひょうめんそくど を くらべた あたい です。

・ぶるーふいんぐ

えきたい の とうか を ふせぐため など、ぬの を ほごする ために ごむざいりょう を ひふくする こと です。

・ぶるーむ、ぶるーみんぐ

れっか ではなく、ひょうめん に はいごうざい が でて しろく なる じょうたい です。

たいこうせい や すべりせい を こうじょう させる こうか が あるので、あえて ぶるーむ させた ごむせいひん も あります。

・ふれーかーふれーと

すくりゆー の せんたん と だい(くちがね) の あいだ に かなあみ と ともに とりつける たくさんの あな が あいた きんぞく の まるい いた です。ねり が よくなります。

・ふれーどほーす

ないそうごむ の そとがわに ほきょうざい(いと や きんぞくわいやー) を あみくみ した ほーす です。

・ふれすき、かりゅう ふれすき

かながた を かあつする ねつばん を そなえた そうち です。

・ふろすていんぐ

おぞん によって れっかし、ひょうめん の つや が なくなる じょうたい です。

ちょーきんぐ と にています。

・ぶんさん

ごむ に はいごうざい を こまかく ひろく ちらす ことです。

・べると、ぶれーかー

たいやの とれつど と かーかす の あいだ に ある ほきょう ぶざい です。
すちーるべると に ごむ を あっちやく して つくります。

・へんけい ふりょう

せいひん を あつい うち に かさねると、ごむ の へこみ や まがり、そり になります。
かなぐ(いんさーと) に つよい ちから を くわえた ばあい も へんけい します。

・へんしん

たいや の かたち が じょうげ や さゆう で ひたいしょう です。
たいや ないぶ で びーど や べると が はくり したり、きれたり して かたち が くずれ
ます。

・ぼいど ふりょう

せいひん の なか に できた おおきな くどう です。

・ほう れん そう

「ほうこく、れんらく、そうだん」を「ほうれんそう という やさい」に かけた りやくご です。
しょくば の こみゆにけーしょん を はかる ために たいせつ な こと です。

・ぼうじゅん

ごむ ざいりょう や せいひん を ながい じかん あぶら や やくひん に つけたり、じょうき
に さらす と、たいせきが ぞうか して やわらかくなる げんしょう です。

・ぼうしんごむ

しんどう が つたわる こと を ふせぐ せいひん です。
「ぼうしん、かんしょう(しょうげき きゅうしゅう)、ぼうおん」の きのう が あります。

・ぼうちゃくざい

みかりゅうごむ が くつつく こと を ふせぐ やくざい です。
こな の ぼうちゃくざい が おおく つかわれて いますが、とびちる こと を ふせぐため に
えきたい の ぼうちゃくざい に かわって きています。

・ほーす

がいそうごむ、ないそうごむ と ほきょうざい で こうせい される ちゅうくう の くだ(ぱいぷ)
です。おしだしせいけい により つくられます。

・ほごぐ(あんぜん えいせい ほごぐ)

つぎの ような こじん よう ほごぐ(Personal Protective Equipment) が あり、さぎょう ちゅう
の じゅうだいな けが や びょうき から からだ を まもります。

あたまをまもる : へるめっと、ぼうし
めやかおをまもる : ほごめがね、ほごめん(しーるど)
みみをまもる : みみせん、いやまふ
のどやはいをまもる : ぼうじんますく、ぼうどくますく
うでをまもる : ながそでのさぎょうふく、うでかばー
てゆびをまもる : ぐんて、たいせつそうてぶくろ、かわてぶくろ
あしをまもる : あんぜんぐつ、こうぷろてくたー
つかうまえにてんけんして、よいものをただしくつかいます。
ほごぐはかならずみにつけて、ぜったいにはずしてはいけません。

<まぎょう>

・まきむしかりゅう

おしだしかこうされたみかりゅうひんをまきとって、とれいにのせてえんとうけいのたいあつかんのなかでかあつじょうきでかねつします。

・ますたーぱっち、Aねり

かりゅうざいいがいのはいごうざいとげんりょうごむをこんねりしたざいりょうです。

・まもう

ごむがせつしょくしているあいてぶつのちいさなおうつにあわせてへんけいし、くいこんでひきちぎられることです。

はぐるまのかみあわせのようなものです。

・みえるか

「だれでもひとめみてわかるさぎょうばにする」とりくみです。

もんだいのあるところがみんなにみえるようになり、ひとりひとりがひんしつのはやしあしや、せいさんのすすみぐあいなどのもんだいにきづいて、かいぜんするちゃんすがうまれます。

・むーに一ねんど

げんりょうごむやこんぱうんどのながれやすさをあらわすあたいです。

むーに一ねんどけいにより、よねつごのしよていじかんごのあたいをよみとります。

・めやに

やけたごむざいりょうがだい(くちがね)のでぐちについてかたまつたものです。

せいひんのひょうめんにきずやすじをつけてしまいます。

・めんしんごむ

じしんのゆれをゆっくりしたおだやかなゆれにかえるせいひんです。
ごむときんぞくばんをこうごにかさねあわせてつくります。

<やぎょう>

・やけふりょう、やけごむふりょう

すこーちがげんいでできるふりょうのことです。

かりゅうがすすんでしまったごむざいりょう、こうおんのせつびやかた、ちょうじかんのかこうによりできるばあいや、ごむのりゅうろにたいりゅうしたごむかすがはいることでできるばあいなどがあります。

・ゆうきようざい

ものをとかすためにかがくてきにつくられたえきたいです。

どくとくのおいがあり、ゆうがいせい(どくせい)やきけんせい(いんかせい)があります。

とりあつかいには、じゅうぶんちゅういしてください。

・ゆかめん

つまずきやすべりによるてんとうをふせぐため、つぎのことにちゅういします。

①だんさやけいしゃ

②でこぼこやひびわれ

③らっかぶつ(せいひんやざいりょう)

④みずぬれやあぶらもれ

⑤くつひものゆるみやくつぞこのすりへり

・ゆにふおみてい

たいやがきんいつでないことです。

たいやはいろいろなざいりょうをふくごうせきそうしてつくられるため、すんぼう、じゅうりょう、ごうせい(へんけいのしにくさ)がぶぶんてきにことなります。

そのぶぶんをたいやのそくめんにしるしをつけてひょうじします。

きいろのまるじるし：「けいてん」といいます。

たいやぜんたいのなかでもっともかるいぶぶんです。

あかいろのまるじるし：「ゆにふおみていまーく」といいます。

たいやのがいしゅうがもっともおおきいぶぶんです。

<らぎょう>

・らじある たいや

かーかす が ほうしゃじょう(radial) に はいち されている たいや です。

・らっぴんぐ

「らっぷ」とよばれる すいへの だい と かこうひん の あいだに けんまざい を いて、ちから を かけながら こすりあわせて けんま する かこう ほうほう です。 ひょうめん が なめらかで へいたん になり、すんぽう せいど が あがります。

・らばーよけ (よせいた、はーと)

ろーる に まきついた ごむ を ろーる から はがして、うちがわ に よせる いた です。

・らんなー

すぷーる の つぎ に みかりゅうごむ が ながれこむ つうろ(りゅうろ) です。 きゃびていー が 2つ いじょう ある ばあい、ざいりょう は らんなー で わかれます。

・りけいざい

ごむ が かながた から はなれやすくする ための やくざい です。 あらかじめ かながた に とふしたり、ざいりょう に はいごうします。

・りさいくる

ごむ の ばり や ふりょうひん を さいりょうすること です。 こまかく ふんさいして せっちゃやくざい で かためて せいひん を つくります。 ねつ や やくひん で しよりして、げんざいりょう として しょう できる みかりゅうごむ に もどします。

・りさいくるごむ

すくらっぷごむ の なかで さいりょう できる ごむ です。

・りょう ぶそく ふりょう

ざいりょう が たりなくて、せいけいひん の かたち が できていない ものです。

・れーざーまーかー(いちぎめ れーざーらいん)

たいや の ぶざい に れーざーこう を しょうしゃ して、いちぎめ らいん と します。

・れっか

ごむせいひん の きのう や せいしつ が、じかんの けいか や かこくな かんきょう に さらされて ていかする げんしょうです。

その げんいん は ねつ、ひかり、おぞん、やくひん など さまざま です。

ごむ では、ろうか と れっか は くべつ なく つかわれます。

・れんぞくかりゆう

れんぞくして おしだされる みかりゆうひん を とくべつな かねつそうち の なか を とおして かりゆうする こと です。

・れんぞくきほう、おーぷんせる

せる(きほう) の かべ(まく) が こわれて、 せる と せる が つながっている じょうたい です。

・ろうか

ごむせいひん が じかんの けいか と ともに、 もろくなったり、 ひょうめん に きれつ が はいったり、 ねばつき が できる げんしょう です。

おもな げんいん は くきちゆう の さんそ による さんか です。

・ろうかぼうしざい

さんそ、 おぞん、 ねつ、 ひかり など による、 こうか や なんか、 ぶっせいの ていかを ふせぎます。

・ろーる

かいてんする まるいつつ で、 ないふ に れいきやくすい を とおします。

・ろーる き (おーぷんろーる き)

2ほん の ろーる で ごむげんりょう と はいごうざいを ねりこむ きかい です。

へいこう に ならべた 2ほん の ろーる に ごむ を まきつける ので、 さぎょうしゃ が ごむ の じょうたい を め で みるこ と が できます。

てゆび が ろーる に まきこまれ たり、 ないふ で きらない ように さぎょう くんれん します。

①にぎりこぶし で ろーる の だぶりごむ を おす。

②てゆび は ろーる の めんちよう より おくにもっていかない。

③ごむ を きる ときは ないふ を ろーる の した に あててから まきて を うえに おく。

④ごむ が ろーる から はがれない ときは ろーる を とめて から はがす。

⑤かお は はねあがり ごむ が あたらぬ よう ろーる に ちかづけない。

⑥まきとり ごむ は ひつよう いじょう に おおきく しない。

(めやす:ちよっけい て の ひら いか、ながさ 1m みまん)

⑦まきとり じ は、なるべく ないふ を ろーる めん かぶ に あて、まいて いる て は ばんく から 15cm いじょう はなす。

- ⑧まきとりごむをきるときは、そえて(ないふをもたないほうのて)をごむのしたにそうにゆうしない。
- ⑨1だいのろーるでふたりどうじに、ひだりとみぎからないふをもってさぎょうをしてはいけない。
- ⑩ごむをきるばあい、ないふをさきにあてがい、そえてはあとからもっていく。
- ⑪ないふはしっかりとぎり、はずれやすべりにきをつけ、はずれてもからだのかくぶあたらぬようみがまえる。
- ⑫ないふはひつようじいがい、ほるだー、ふれーむなどあんていしたばしょにおき、もったままさぎょうをしない。
- ⑬ないふをもっているときは、じぶんだけでなくしゅういのひとにも、あてぬようきをつける。
- ⑭まきとりごむがろーるのごむにふちやくしたばあいは、むりにひきとろうとせず、さいどまきなおす。

— いじょう —

2022ねん7がつ20にちかいてい